

●HPV ワクチン接種

■HPV：

HPV とは human papilloma virus の頭文字をとったもので、ヒトパピローマウイルスのことをいいます。

■HPV と子宮頸がん：

- ①子宮頸がんは HPV が持続的に感染することによって異形成を生じ、さらに浸潤がんに至ることはすでに明らかになっています。
- ②ただし、HPV に感染しても多くの感染者は数年以内にウイルスは消失しますが、そのうちの数%は持続感染から前がん病変に移行し、さらにその一部は浸潤がんに至ります。
- ③性交経験のある人の多くは、HPV に一生に1度は感染するといわれています。日本では 子宮頸がんのほぼ 100%に高リスク型 HPV が検出され、中でも HPV の 16 型と 18 型が 50～70%を占めています。
- ④ 子宮頸がんは 20 代から上昇し、40 代でピークを迎えます。日本では年間約 1.1 万人の罹患者とそれによる約 2900 人の死亡者を数えます。
- ⑤子宮頸がんは早期に発見されれば予後の悪いがんではありませんが、妊娠することができなくなる手術や放射線治療が必要な 20 代・30 代の方が年間 1000 人います。また前がん病変で子宮頸部の円錐切除術は年間 1.3 万人を超えています。

■HPV ワクチンの効果（有効性）：

- ①HPV ワクチン接種によって自然感染と比べて数倍量の抗体を獲得でき、少なくとも 12 年維持することが明らかになっています。
- ②HPV ワクチンは子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されており、また子宮頸がんそのものを予防する効果があることも分かっています。

■HPV ワクチンの安全性：

- ①ワクチン接種後の症状として 頻度の高いものは接種部位の疼痛、発赤、腫脹です。
- ②頻度は低いものの重い副反応も報告されています。院内にワクチンに関する資料をご用意してあります。
- ③当院では前回、62 名の定期接種を行いました。重い副反応はありませんでした。

■機能性身体症状：

様々な身体症状はあるものの、画像検査、血液検査などで異常所見が見つからない状態をいいます。ワクチン接種歴のない方にも、ワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する方が一定数存在したことが明らかとなっています。

■HPV ワクチン接種：

- 1) 定期接種対象者：小学校 6 年～高校 1 年相当の女子
- 2) キャッチアップ対象者：高校 2 年相当～25 歳の女子：H9/4/2～H18/4/1 生まれの女子
キャッチアップの意味：「追いかける」とか「後れを取り戻すために巻き返しを図る」などの意味です。HPV ワクチンの定期接種が受けられなかった世代の救済措置を行う

ということです。

3) **ワクチン接種**：1回目の接種から2か月後と6か月後の3回接種を行います。

接種後30分は院内で経過観察を行います。18歳（高校生）までは接種当日は保護者同伴をお願いします。

■**ワクチンの予約と事前説明**：

まずは電話でお問い合わせください。ワクチン接種前にご本人と保護者の方にワクチンと子宮頸がんのお話をします。事前説明にご納得いただいた上で、予診票の記入（18歳までは予診票に保護者同意のサインが必要になります）とワクチンの予約を行い、接種日を決めます。

■**18歳という年齢**：

R4年4月から成人年齢が20歳から18歳に引き下げられました。法律上は18歳は成人ですが、HPVワクチンに関しては、18歳までは①保護者同伴で事前の説明を受けること②予診票に本人と保護者の同意のサインをすること③接種当日は保護者同伴であることが必要になります。